

トクモト 徳用 石川郡中奥郷に屬する部落。松任城に居た鑓木頼信の一族に、塚田徳用といふ者があつたので、田中から分村した際その名を採つたのだといふ説もあるが、白山宮所藏延文元年七月廿六日の文書に、既に東得用と見えるから、それは誤である。

トクヤマシヨウザエモン 徳山少左衛門 一に少を庄に作り、又勝にも作る。徳山五兵衛則秀の父。天正八年柴田勝家等が一向宗徒を討伐した後、能美郡御幸塚城に少左衛門を置いて之を守らしめた。

トクヤマナホマサ 徳山直政 通稱五兵衛。則秀の子。寛永十年十一月桑山左近・林丹波と共に、幕府の巡國使として金澤に來た。

トクヤマノリヒデ 徳山則秀 甫庵太閤記は徳ノ山に作る。天正四年加賀の一揆は、大聖寺城に在つた織田氏の將戸次廣正を攻め、廣正は急を信長に報じて援を求めた。信長乃ち廣正を召還し、佐久間盛政をして代らしめたので、盛政は救地天神山の嶺を陥れて、御幸塚城に迫つた。時に則秀は先鋒の將であつたが、自ら調略を廻らし、一揆の部將林七助・内山四郎左衛門を誘うて内應せしめ、因つて容易に城を陥れることを得た。その後則秀は常に盛政に従ひ、八年能登の温井景隆・三宅長盛が織田氏に降した時には、則秀命ぜられて能登の監察使となり、九年信長によつて松任城に置かれた。十一年柴田勝家の羽柴秀吉と戦ふ爲近江に入るや、四月二十日則秀は佐久間盛政の先鋒となつて、中川清秀の大岩嶺を陥れたが、翌日の敗戦に逃げ歸り、廿二日越前府中に於いて秀吉に降を容れた。この戦後則秀は松任を除かれ、前田利家に臣事した

が、慶長四年閏三月利家死去の翌日出奔して徳川氏に仕へ、その子孫長く幕臣として世襲した。

トクヨウ 徳用 ↓トクモト 徳用。トクライハチロウ 戸倉伊八郎 長州の人。又豊之進、後坪内祐之進・祐に作る。初め江戸の高島秋帆に砲術・兵學・築城學を習ひ、本郷元町に塾を開いて教授したが、文久二年加賀藩に聘せられて壯猶館の數學教師となり、明治二年鉤深館に轉じて測量と器械運用とを教へ、航海啓蒙を著した。西洋算法の金澤に起つたは、伊八郎を以て鼻祖とする。

トクヤマ 砥藏山 江沼郡坂下下に在る。江沼志稿に、この村に砥倉明神があり、社内及び山中の石を取る時は忽然として風が起る。故に七月より五穀成熟の時まで、他村の者工商の輩の入ることを禁ぜられるとある。砥倉明神はもと砥藏山の麓に在つたもので、式の日置神社であるといふ。↓ヘキジンジャ 日置神社。

トクリユウ 獨龍 ↓テンガイドクリユウ 天外獨龍。トクリユウジ 徳龍寺 金澤千日町に在つて、眞宗東派に屬する。

トクリンジ 徳林寺 鹿島郡小島に在つて、曹洞宗に屬する。寺記に、永祿四年龍門寺の周長之を創建したといひ、もと本七尾にゐた。

トクレンジ 徳蓮寺 羽咋郡見砂に在つて、眞宗西派に屬する。トクレンジ 徳蓮寺 鹿島郡藤井に在つて、眞宗東派に屬する。トコロジマリ 所縮 藩政の時、百姓又は

村役人の刑に所縮の名目があつた。その居住地に於いて禁錮するものであらう。トコロノクチ 所ノ口 鹿島郡七尾の舊名を所ノ口町といふた。↓ナナヲ 七尾。トコロノクチ 所ノ口 鹿島郡矢田郷に屬する部落。氣多本宮社藏建武三年八月廿七日源頼顯の判書に、氣多本宮所口とあつて、これは今の七尾小丸山にあつた時のことである。後前田利家の入部するに及んで、氣多本宮も部落も共に明神野に移された。それが今の所ノ口である。

トコロノクチザイジュウ 所ノ口在任 天保十四年海岸の警備を嚴にする爲、人持組の士を擇んで能登所ノ口に駐在せしめることにしたのをいふ。但し當分海路通船中四五十日宛詰めればよいとの命であつた。

トコロノクチジ 所ノ口寺 鹿島郡氣多本宮の別當寺であつたといふが、夙に廢絶した。能登名跡志に、『氣多本宮は昔は社人・神子・社僧等多くあり。別當の座主は所ノ口寺とて、國分寺兼帯なりといひ傳へり。』と記する。氣多本宮がもとの所ノ口即ち小丸山に在つた時のことであらう。

トコロノクチダイカン 所ノ口代官 鹿島郡なる所ノ口御代官の起原は明らかでないが、伴喜左衛門の勤めたのが初であらう。寛文三年伴に代つて加藤又右衛門が任ぜられ、爾後一人役として連絡した。

トコロノクチマチブギヨウ 所ノ口町奉行 その起原は明らかでないが、初は七尾町奉行といひ、慶長十九年に三輪藤兵衛、その後は大井久兵衛の名が見える。又寛永十一年に津田宇右衛門、正保中に不破源六、萬治三年に

黒坂吉左衛門が命ぜられ、その後一人宛で平士役となり、元祿十五年から所ノ口町奉行と稱した。トコロバラヒツイホウ 所拂追放 ↓ツイホウ 追放。トコロメン 所免 藩政の時、田租の率即ち免は、各村毎に定められてゐた。その免の儘で知行として給する場合にあつては、之を所免を以て與へるといふた。一般には知行高に對する平均免だけの草高の土地を與へるのであるが、知行高と同数の草高を興へて、高免ならば高免の儘、下免ならば下免の儘で收納せしめれば、それは所免によるものであつた。

トサカイシ 雞冠石 白山の舊市、瀬温泉からの登路剃刀窟と指尾との中程にある大石で、形狀の似たるを以て名づける。トザカトウエモン 戸坂藤右衛門 羽咋郡八幡の人で、俳號を花溪といふた。高千二百石を有し、苗字帯刀を許され、最も殖産に力を盡くし、又文化の頃から自己所有の馬の中駿逸を選んで毎歲藩侯に献納した。後此の地の産馬が優秀なるを得たのは、藤右衛門が遠く奥州南部地方から良種を移入して改良したためであつた。

トシイヘキヨウブコウオホエガキ 利家卿武功覺書 一冊。前田利家が天文二十年尾張海津の役に初陣してから、天正十一年江州志津嶽の役に至るまでの戦功を記する。此の書によつて利家が孫四郎と稱したのは、織田孫三郎信家の烏帽子子であつたからだといふことが知られる。

トシイヘコウオヤワ 利家公御夜話 ↓ア